

S U N D A Y M A I N I C H I

サンデー毎日

2014年6月1日 号 掲載

治療最前線 Vol.16

脊椎脊髄治療 スペシャリスト

S p i n e S p e c i a l i s t s

脊椎脊髄治療 プロフェッショナル Professional Doctor

米倉脊椎・関節病院





米倉 徹 院長

よねくら たけお

医学博士。1985年、東京大学医学部卒業。東京大学医学部整形外科勤務の後、92年、Johns Hopkins大学(Baltimore, USA)留学。98年、東京大学医学部整形外科講師。12年、米倉脊椎・関節病院院長。日本整形外科学会認定整形外科専門医、身体障害者福祉法認定医



160㎡を超える広いリハビリテーション室で患者一人ひとりに合ったリハビリを行う。
関節疾患を担当する望月医師（右写真中央）との連携もスムーズである



（写真左） 脊椎固定術を行う米倉院長
（写真右） カンファレンスを徹底し、チーム医療で臨む

患者に徹底的に寄り添うため回復期リハビリ病棟を併設し 発症、受傷前以上のADLとQOLの向上を目指す

脊椎と下肢関節疾患を

トータルに治療し健康寿命を延ばす

2012年に開設された米倉脊椎・関節病院では、脊椎、下肢関節疾患を中心とした治療を行っている。「骨折などの救急医療と切り離すことで、高度な医療機器の導入を含めた脊椎、下肢関節疾患中心の診療環境が整えられると同時に、レベルの高いスタッフ教育を行うことができます。その結果、全スタッフの業務が効率化され、ひいては質の高い医療を提供することが可能になると考えています」と米倉院長はいう。

手術後の集中的なリハビリにより 介護者の負担軽減も実現

米倉院長は頸椎・胸椎疾患から
せきからみかんきょうくしょう
腰部脊柱管狭窄症などの腰椎疾患及び脊椎圧迫骨折後の椎体

あつかい
圧潰などに対する手術を幅広く
行っている。

米倉脊椎・関節病院の一番大きな特徴は、予防から治療、そしてリハビリに至るまで、一人の患者に徹底的に寄り添う点にある。そのために設けられているのが回復期リハビリテーション病棟だ。

この病棟では、手術後の回復期にある患者に対し、医師、看護師、リハビリテーション科、医療相談員などが共同して自宅復帰を目的としたプログラムを作成し、集中的にリハビリテーションを行う。これにより発症、受傷前以上のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上に取り組んでいる。

「働き盛りで早期に社会復帰をする必要がある方なら、当然早期退院が可能です。ただ、高齢者などの場合、日常生活動作もおぼつかないままに退院してしまうと、本

人だけでなく介護者にとっても大きな負担となってしまいます。入院してリハビリを行うことで、リハビリ効果の向上と介護者の負担軽減を実現することができました。急性期と回復期リハビリ病棟を分けることで、痛みに耐えながら手術待ちする患者を減らし、一方リハビリ期の患者に対して、ベッドを空けるために早期退院を迫る必要がないという利点もあるという。

「2013年1月～12月の手術実績は脊椎だけで132件ですが、1人の医師が外来から手術、そしてリハビリまでしっかりかかわるとなると、おのずと件数には限界があります。病院選びの視点には数字だけではなく、リハビリまでを含めた治療体制を知ること必要なのではないでしょうか」と米倉院長は指摘する。



米倉脊椎・関節病院

東京都足立区扇3-13-14
TEL.03-3855-4154

<http://spine-joint-yhp.jp>

診療科目：整形外科、リハビリテーション科、内科、麻酔科（準尾和宣）

受付時間：月～土 8:30～11:30 / 13:30～16:30

休診日：日・祝